

北海道の冬は寒く、子どもたちは家で過ごす時間が多くなっています。また、子どもたちを取り巻く状況は、年々変化しており、以前に比べて、屋外で遊ぶ子どもたちが少なくなってきました。

# 新雪と戯れ躍動する子どもたち!!

## 第7回 スノーフェスティバル・冬の大会

北海道の冬は寒く、子どもたちは家で過ごす時間が多くなっています。また、子どもたちを取り巻く状況は、年々変化しており、以前に比べて、屋外で遊ぶ子どもたちが少なくなってきました。

北斗スポーツクラブ (N.O.S.S) と北斗市スポーツ推進委員会は、この状況を踏まえ、北国ならではの雪遊びの楽しさを知ってもらうこと、冬場の運動不足解消のきっかけになればと考え、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を行い「スノーフェスティバル・冬の大会」を開催しました。

### 新雪の中で寒さにも負けず!!

7回目を迎える「スノーフェスティバル・冬の大会」は、1月10日(月・祝)に快晴無風の「冬の大会」日和の中、運動公園多目的広場で開催しました。昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となったため、2年ぶりの開催となりました。幼児・小学生とその保護者などの一般男子・一般女子の分かれ、6種目で競いました。

### 優勝を目指して

開会式の後、けが防止のため、ラジオ体操を行ってから開始しましたが、まず最初の競技、雪上の10メートル先の旗を奪い合う「スノーフラッグ」では、幼児・低学年・高学年・一般女性・一般男性の部に分けて行い、参加者は柔らかい雪の上で転んだり、雪だらけになってしまいました。その白熱した展開に応援の皆さんも大いに沸きました。

積雪の状況で「即興雪だるまづくり」から変更となった「雪中お宝さがし」では、おにぎりケースやミニ貯金箱を雪中から掘り当てることに子どもたちは夢中で、中には特別なプレゼントが入っているものもあり、とても盛り上がりました。

一般男子・女子による「お尻相撲」では、ユーモアいっぱい対戦する人など、笑顔あふれる対戦となり、「雪中綱



旗に向かってダッシュ「スノーフラッグ」

引き」では、東軍と西軍に分かれて行いましたが、両チーム譲らず3回戦まで続き大いに盛り上がりました。

「全員リレー」は、参加者全員が5チームに分かれ、20メートル先のカラーコーンを回って戻るリレーでしたが、子どもと手をつないだり、抱っこをして走る親子など、子どもと大人と一緒に参加する楽しいリレーになりました。



タイミングがポイントです「おしり相撲」

そのほかに「北斗市ふるさとかるた」を大きくして「雪中かるた」も行い、北斗市の歴史・文化・自然などに触れる機会もありました。

閉会式では、子どもたちに「外で元気に遊んでほしい」という願いを込め、参加賞としてそりをプレゼントしました。



息を合わせて「雪中綱引き」



取れた! 「雪中かるた」

### 運動会を終えて

今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、冷えた体を温める豚汁の提供はありませんでしたが、天候にも恵まれ、大きな事故やけがもなく終えることができました。

コロナ禍での開催となりましたが、子どもたちに少しでも雪遊びの楽しさを感じてもらおう機会となったのではないのでしょうか。また、大人もとても楽しんでいる様子で、冬の運動不足解消に役立っていると思います。

来年、皆さんの参加を心よりお待ちしております。

(北斗市スポーツ推進委員会 委員長 安達 孝義)